



著者プロフィール

桐山太志(きりやま. ふとし)

1978年 兵庫県姫路市生まれ
2003年 広島大学大学院文学研究科修士
課程修了(日本史学専攻)
2013年 「鷹」入会、小川軽舟に師事
2017年 「鷹」新人賞受賞
2022年 「鷹」俳句賞受賞

「鷹」同人、俳人協会会員、奈良市在住

〈句集『耳梨』(みみなし) より転載〉
〈2023年12月25日時点〉

『耳梨』(自選15句)

桐山 太志

寒鯉を分けて寒鯉すすみけり
日盛や鹿せんべいの帯十字
自転車で帰る漁師や花曇
春風や二墨ベースに女の子
枯園に火傷の痕を見せられき
旅先のやうに住む町草の絮
明易の枕に聞ける風樹かな
浮塵子飛ぶ夕映赤く濁りけり
有史より先史明るき木の実かな
山焼の匂ふ華厳の闇深し
鯉濃や風突つかかる窓に雪
軍鶏老いて金秋の声絞りけり
島国にして山国の初日かな
真つさらな朝ゆきわたる雪野かな
狒犬のふぐり幼し梅の花